

概要

- 地域関係機関合同による **ワンストップでの就農相談体制を構築**。月例相談日を設ける市もあり地域で定着。
- 新規就農者・就農希望者が共に学び交流する講座を開催。経営セミナーと合わせ年6回開催している。
- 講座には **青年農業士や経営確立した新規就農者が登壇**し、講義の他、現地研修や座談会で活躍している。
- 「農作業の安全管理」「農業機械のセルフメンテナンス」を先輩農業者が実機を用い指導。毎年趣向を変え人気カリキュラムである他、全講座を通じ **安全意識の高揚に取り組み、農作業事故防止につながっている**。
- 地域内外の生産者と交流を図り、**仲間と相談できる関係構築を支援し、新規就農者が定着している**。

具体的な成果

1 効果的な就農支援の実現と拡大

- 就農相談会の定期開催により情報共有が進むとともに関係者がそれぞれの立場から支援しやすくなった。
市町・JAと連携した**円滑な就農支援が地域に拡大した**。

2 講座が交流の場としても機能

- ディスカッション・座談会など趣向を変えて実施、「疑問のままで帰らない」ねらいどおり**知識吸収と交流を両立**。年間延べ100名以上が参加し、交流の場としても機能。

3 先輩農業者らによる士気高揚

- 青年農業士の**経営手腕や信念に触れ、士気が高揚**。新規就農先輩が自身の経験を惜しみなく紹介する姿勢に刺激され **経営就農や経営確立に向けた意欲が向上**。

4 農作業安全管理への意識向上

- 安全意識向上に繋がる企画を続けた結果、**農業機械の安全使用やメンテナンスへの関心が高まり、最も人気のカリキュラムとなり農作業事故防止につながっている**。

5 課題解決とネットワークの構築

- 就農後は実証ほの設置等により経営確立に向け課題解決を継続的に支援し、早期経営を支援すると同時に先輩農業者らと相談できるよう橋渡し役となることで、**新規就農者が円滑に地域へ溶け込み、定着している**。



講座では気づきや疑問を発表、助言を参加者で共有している



先輩農業者の話により士気高揚。実機で農機の安全使用を学ぶ



ぶどう園で説明する先輩就農者



市場と連携した品目栽培

普及指導員の活動

平成28年度～
令和元年度

令和4年度

令和5年度

継続

- 基礎的な知識の習得が望まれる就農希望者に向けて、農業基礎講座を開始。
- 早期経営安定を目指し、就農5年目までの新規就農者も対象に新規就農者講座に。
- 関係市町と、JAと就農支援の体制を強化、**ワンストップでの就農相談体制を構築**。
- 講座生同士の交流を図る **グループディスカッション等の取組開始、活性化を図る**。
- 地域の **青年農業士や先輩新規就農者による講座を増やし、モチベーションアップ**。
- 就農した**先輩と、就農希望者が一緒に参加する**環境を活かした講座の計画・運営。

普及指導員だからできたこと

- ・ 新規就農者の確保・育成にかかる**取り組みをコーディネートし、地域関係機関の支援施策の底上げを図った**。
- ・ 講座は**先輩農業者が活躍できるよう支援したことで、新規就農者らの士気が高まり、早期経営安定に供した**。
- ・ 農作業安全管理も講座開催にあたり、**生産者らが新規就農者育成において中心的役割を担えるよう調整に務めた結果、生産者自身による実地的講義を実現し、講座生の高い関心を得て、研修効果を上げている**。
- ・ 就農後の個別支援においても、対象農家だけの課題解決とせず、**地域内外の農業者と相談する機会を設け、仲間と共有できる機会を設けるなどして地域への溶け込みも支援、地域の新規就農者の定着を高めている**。

兵庫県

地域の生産者らと共に取り組む新規就農者の確保・育成

活動期間：平成 28 年度～継続

1. 取組の背景

北播磨地域の新規就農者は年間 30 名程度で、年代は幅広く、水稻や野菜、果樹が多い。消費地に近く、県立農業大学校が近いので就農相談が多いが、コロナ禍で相談件数が急増。令和 3 年度には年間 400 件を超え、関係機関が連携した相談体制の整備が急務となった。また、農業経験や知識も乏しく、地縁者もいないといった就農希望者も少なくなく、知識の習得と同時に、就農後、農業者間のつながりを構築できるような支援が必要となっていた。

2. 活動内容（詳細）

(1) 地域連携によるワンストップ相談体制の構築

補助事業を活用して就農する場合は、市町や J A とともに早期から対応方針の共有が必要である。そこで、令和 4 年度から就農相談カードを確認の上で、市町と普及センター、J A が集まり、ワンストップで相談できる体制を構築した。一部の市は月例相談日を設けホームページで案内する等定着している。

(2) 就農希望者・新規就農者向け講座の開催

急増する就農希望者の中には、基礎的な知識がないまま就農を目指す例も多かった。そこで、平成 28 年度に就農希望者向け農業基礎講座を開始。令和元年度からは早期経営安定を図るため、就農 5 年目までの新規就農者も対象とした新規就農者講座に改め、経営セミナーと合わせ年 6 回開催している。

① 特徴 1 就農希望者・新規就農者の交流促進

令和 5 年度、講座生同士話す機会を増やそうとグループディスカッションを設けたところ講座が活性化。「意見交換や発表で農作業安全管理の意識を高められた」「続けたい」という声で定番課程としている。



班毎に気づきや疑問を発表し、得た助言を参加者で共有している。

② 特徴 2 青年農業士らによる実践的な講義

若手農業者の優良経営、卓越した技術やリーダーシップを学ぶため青年農業士に講師を依頼している。令和 6 年度は、山田錦を中心に水稻や作業受託、野菜等を販売する青年農業士、水稻の他、有機栽培のにんにくをブランド化、自社で加工販売する青年農業士が自身の取組を紹介。講義にあわせ開催した座談会では講座生らの疑問に答えている。



青年農業士らによる講義。続く座談会では講座生らの疑問に助言した



ぶどう園で説明する先輩就農者

③ 特徴3 先輩新規就農者の活躍

近年は先輩新規就農者も講師を担っており、令和6年度は2名が現地研修、体験講義、ディスカッションと1日3工程の大活躍。現地で「出荷調製や従業員への伝達」「作業場面積や建設費」を説明、講義で「就農までの研修」「販売の工夫」「地域付き合いの重要性」を助言、班ごとの質問に答えている。

④ 特徴4 農作業安全の周知徹底

「農作業の安全管理」「農業機械のセルフメンテナンス」を先輩農業者が実機を用い指導。毎年趣向を変え、大型農機の他、日常的に用いる刈払機や管理機の正しい使い方やメンテナンス等講座生が機械に触れて学んでいる。



(3) 個別プロジェクト活動による支援

就農後は実証ほ等により継続的に支援。令和6年度の主な活動を紹介する。

① 自家いちご苗の品質と生産量の確保（野菜）

高温対策実施を提案し、遮光資材と新たな換気方式による育苗成績改善に取り組み、良好苗の育成と必要数を確保。早期経営安定に向け弾みをつけた。

② 高設栽培ベンチの厳寒期対策による収量向上（野菜）

兵庫県作出のいちご新品種栽培において、培地加温する試験ベンチを設け、効果的な活用方法を共に研究、調整技術習得を支援し、目標収量を達成した。



③ 経営方針の確立や関係者との関係構築（花き）

SWOT分析による客観的経営分析により、フラワーショップの開店や、市場と連携した新品目栽培等の経営方針を確立。支援地域内外の生産者への視察研修等により、技術の習得と仲間と相談できる関係構築を支援した。



④ 基礎技術向上やスマート技術の導入（畜産）

体格測定や普及指導員開発のオリジナルソフト活用で、但馬牛の育成技術や繁殖成績を向上。自宅から牛舎が遠い新規就農者にはネットワークカメラ導入を支援、分娩時や子牛の事故ゼロを継続して販売目標を達成した。

(4) 青年クラブ、各種研究会等への誘導

就農後に同世代の農業者らと情報交換ができるよう4Hクラブをはじめ、JA青年部や研究会組織への参加を誘導。普及指導員がクラブ事務局を担い指導する中、新規就農者が速やかに地域へ溶け込めるようサポートしている。

(5) 活動発表会・経営セミナーの開催

青年農業者活動発表会や農業経営セミナーを開催。新規就農者らの新技術導入成果の発表や農業経営の講演を通し、青年農業者の他、地域の代表的農業者と一堂に会して学び、モチベーションアップを図れるよう支援している。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 効果的な就農支援の実現と拡大

就農相談会の定期開催により情報共有が進むとともに、関係者がそれぞれの立場で支援しやすくなった。また、相談カードの事前提出により、相談者は相談内容を整理、対応側も事前に把握ができ、効果的相談に繋がっている。就農計画の作成や事業申請への支援も相談会を活用、市町・JAと連携した円滑な支援が可能となり、他市町に取り組みが拡大している。

(2) 講座が交流の場としても機能

ディスカッションはクイズや座談会形式など趣向を変えて実施、発表への助言によって「疑問のままで帰らない」ねらいどおり、知識の吸収と交流を両立している。参加者は年間延べ100名を超え、交流の場としても機能。講座での交流を通し、青年クラブ等の組織活動に参加する新規就農者も増えた。

(3) 先輩農業者らによる士気高揚

地域の優れた経営者である青年農業士の経営手腕や信念に触れ、講座生の士気の高揚に貢献した。また、身近な存在の新規就農先輩が自身の経験を惜しみなく紹介する姿勢は講座生の共感を得ており、就農や経営確立に向けた意欲向上や、仲間づくりにもつながっている。

(4) 農作業安全管理への意識高揚

知識や技術習熟に差がある講座生が交流することで、経営感覚や安全管理意識の向上につながるよう意識して企画を続けた結果、農業機械の研修では使い方やメンテナンスへの関心が高まり、最も人気のカリキュラムになっている。講座では近年の農作業事故の発生状況の他、時期に合わせて、課題となっている熱中症対策も紹介するなど、農作業事故防止につながっている。

(5) 課題解決とネットワークの構築

地域内外の先輩農業者との相談機会、自らの取組を発表して多くの仲間と共有する機会を企画することで、新規就農者が地域へ溶け込みやすくなった他、積極的に市場商談会に出展、買参人に商品説明する等行動も変化した。

(6) 若手普及指導員のスキルアップ

講義は若手普及指導員が担当し、新規就農支援チーム全体や専門技術員でフォローすることでOJTの機会となっている。



専門技術員から助言を得た若手普及指導員の講義は解りやすく好評。討議の進行も巧みにサポート。

4. 農家等からの評価・コメント（新規就農者）

- ・講座や視察研修に参加し、内容も参考になったが、仲間同士の情報交換で困っていることへの解決策を共有できてよかった。（講座生 A 氏）
- ・地域で生産者が少ない品目だが、先進農家への視察研修が参考になった。その後、情報交換の仲間づくりにもつながりありがたかった。（同 B 氏）
- ・農作業安全研修では普段乗っている機械や作業について、危険さに気づき参加して良かった。メンテナンスも目からウロコの話が聞いた。（同 C 氏）

5. 普及指導員のコメント

兵庫県加西農業改良普及センター 経営課・経営課長・松井孝之

関係機関が連携して行うワンストップ就農相談体制の効果は大きく、就農支援の取り組みが加速した。新規就農者講座や経営研修会にも全市町、JAが参加しており、支援施策の底上げにも繋がっている。

講座では青年農業士や経営を確立した新規就農者が講師を担うことで新規就農者らの士気が高まり、早期経営の安定に貢献している。農作業安全管理も農家自身による実地的講義が講座生の高い関心を得て、研修効果を上げており、地域の生産者らが新規就農者育成において中心的役割を担っている。

就農後の個別支援は課題解決に向け実証ほを設け指導することが多いが、対象農家だけの課題解決とせず、地域内外の農業者と相談する機会を設け、仲間と共有できる発表の機会を設けるなどしたことが成果につながっており、今後も地域の生産者と共に新規就農者の確保・育成に取り組みたい。

6. 現状・今後の展開等

北播磨地域では特産物のぶどうを中心に果樹栽培を振興しており、地域の新ブランド創出やその栽培組織の育成を通じて新規就農者を支援してきた。そうした取り組み成果で、果樹希望者は講座生の1/3、認定新規就農者50名の約2割を占めるに至っている。一方で、就農希望者に比べて研修指導農家が少ないこと、地元の受入条件の整理がまだ十分ではないことが課題である。

今後、就農定着応援プラン等により、産地の就農希望者の受入体制づくり、指導を担う親方農家の育成を進めていく。新規就農者確保と産地の育成体制づくりを並行して推進する新たなプロジェクト活動で、県を代表するぶどう産地として維持発展するよう地域の関係機関、生産者と共に取り組んでいく。